

日韓トンネル通信

編集/発行

特定非営利活動法人
日韓トンネル研究会本部事務局：東京都港区麻布台1-1-20
〒106-0041 麻布台ユニハウス513
TEL 03-3589-4188 FAX 03-5570-1634
E-mail office@jk-tunnel.or.jp

九州支部：0120-09-2188

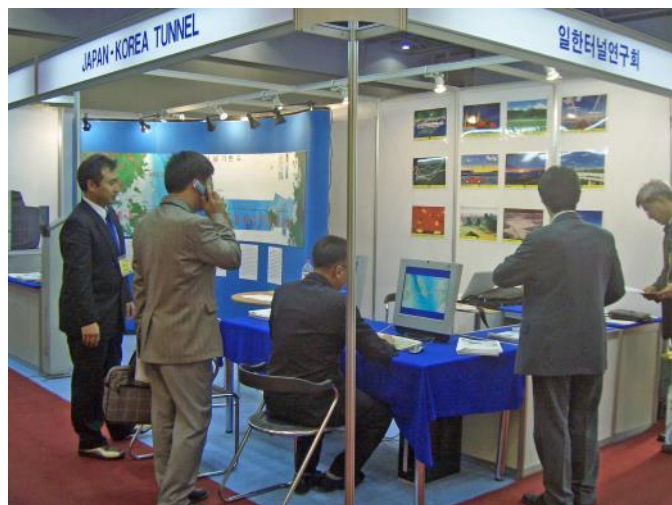
(報 告) 韓国の国際見本市で日韓トンネルを展示しました。

昨年10月25日から4日間、韓国のコヤン(高陽)市にある韓国最大の国際展示場KINTEXで開かれた「INFRATECH2006(第4回韓国国際トンネル道路・橋梁・鉄道および新交通技術展)」にて、広く一般に日韓トンネル計画を紹介した。

「INFRATECH2006」は建設交通部と産業資源部が主催し8カ国、150の企業が合計300ブースでトンネルや地下空間開発などに関する技術を展示した。25日午前11時からの開会式ではテープカットに野沢太三会長が参加し、韓国の政府関係者らとともに展示会場の各ブースを見学した。

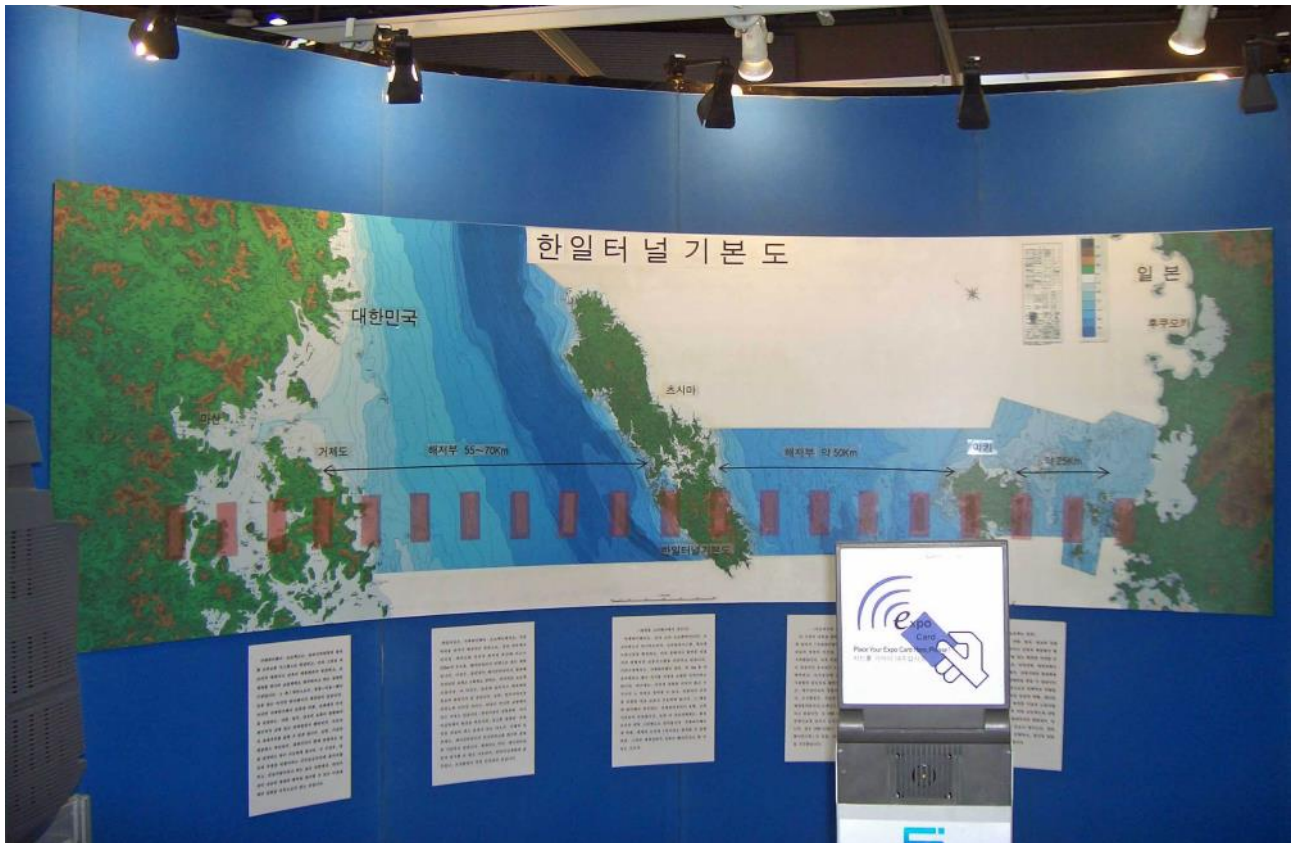
当会ブースの広さは3m×6mで、日韓トンネルの基本図(幅3m)や関連パネル12枚を展示した。またコンピュータ3台を設置し、パワーポイントによる説明を見学者が自由に楽しめるようにした。また、日韓トンネルのパンフレット(日本語、韓国語、英語版)を配布した。その他、ビデオで日韓トンネル関連ニュースを放映した。

来場者は政府や業界関係者から大学生までさまざま、「日韓トンネルの工事は始まっているのか」「いつごろ完成するのか」「経済的採算は取れるのか」などといった一般的な質



問から、「韓国側ではどこの組織が調査を進めているのか」「日韓共同研究をやっているのか」など、進め方についての質問、トンネル施工法の提案、トンネル内の換気装置や照明器具の紹介、など専門的なやりとりも多かった。

4日間のブース訪問者は約350名で配布したパンフレットの部数は約500部であった。



北東アジアの日本と韓国と中国が連携しながら共同体を形成してゆく上で日韓トンネルは欠かすことのできない要衝でもあるため、日韓両国の共同プロジェクトとして進めることのできる日韓トンネルは韓国内でも注目を浴びている。

(報 告)日韓トンネルの調査研究に関する業務協力の合意書を韓国の団体との間で交わしました。

昨年10月24日、当会は韓国の「社団法人韓日海底トンネル研究院(朴慶夫理事長)」との間で、日韓トンネルに関する技術および情報交流に関する合意書を交わした。今回、日韓両国の民間レベルでの公式の共同研究調査の合意書ができたことが契機となり、日韓トンネルについて政府間での共同研究・調査が実現することが期待される。

(報 告)野沢太三会長が日韓トンネルの上陸地点と想定される釜山と慶尚南道を訪問しました。

昨年10月26日、野沢太三会長は韓国第2の都市である釜山市と、韓国南岸に面する慶尚南道を訪問した。まずホ・ナムシク(許南植)釜山市長を表敬訪問し日韓トンネルについて意見交換をした。市長は訪問に感謝され、今後の活動に強い期待を表明された。また釜山市の中心部にあるタワーに昇り、釜山市街と巨済島をトンネルと橋梁で結ぶ高速道路の建設予定地を遠望した。その後、慶尚南道のチャンウォン(昌原)市に移動し、慶尚南道のキム・テホ(金台鎬)知事と面会した。慶尚南道は日韓トンネルを組み込んだ地域計画を立てており、釜山市と同様、日韓トンネルについて非常に前向きに取り組んでいる。

(報 告)九州支部の第3回通常総会と第3回理事会が行われました。

昨年7月28日、九州支部の第3回通常総会と第3回理事会が福岡ガーデンパレスで同時開催された。来賓として東京本部から野沢太三会長が出席した。藤橋健次理事が議長に選出され議事に入り、まず、平成17年度事業報告があり、①韓国道路交通協会主催の「2005 世界道路交通博覧会」出展、②総合研究開発機構(NIRA)が月刊誌「NIRA 政策研究9月号」に日韓トンネル計画の論文を発表したこと、③社団法人大韓土木学会韓日物流システム研究委員会との共同研究、などについて報告があった。次に平成17年度の事業会計収支決算が報告され承認された。平成18年度事業計画は、①今年10月ソウルで開催予定の「インフラテック 2006」への出展、②日韓共同研究の推進、③当会ホームページの充実、などを審議し承認された。次に平成18年度事業会計収支予算案を審議し承認された。定款の変更では、当会の第53条(残余財産の帰属)の変更を審議し承認された。役員の変更では九州支部の佐々木和資理事が九州支部副支部長に就任するなどの変更があった。

(報 告)ユーロトンネルを視察しました。

昨年11月27日から12月4日にかけて、野沢太三会長、濱建介副会長ら一行が、フランスのカレーとイギリスのドーバーを結ぶユーロトンネルを視察した。中央コントロールセンターやカートレイン形式でトラックや



乗用車などを運搬するシャトル、旅客専用のユーロスターなどを視察した。またユーロトンネル社では経営状況やユーロトンネルの旅客・貨物の輸送量、トンネルの保守管理などについて詳しくヒアリングした。その詳細を本紙次号あるいは「日韓トンネル研究」に掲載する予定である。

(報 告)第1回ルート検討委員会が行われました。

昨年12月12日、東京本部の会議室にて、第1回ルート検討委員会が開かれた。この委員会は日韓トンネルの想定ルートの再検討を目的とし、当会技術委員会の下部機構として設立された。日韓トンネル関連地域の地形、地質、地域開発などを考慮し、主に、九州本土から対馬までのルートについて検討する方針である。第1回の委員会では高橋彦治名誉会長が座長となり、旧第3部会が作成した7本のルート案について検討した。

(記事紹介) 日韓トンネル計画に関連する新聞・雑誌掲載記事を紹介します。今回は次の1点です。

・東京スポーツ 2007年1月12日

平成19年(2007年) 1月12日(金曜日)

韓国の高建元首相が大統領選で公約に



12月に行われる韓国大統領選に立候補予定の高建(コ・ゴン)元首相が「『日韓トンネル建設』を公約にすることを検討している。完成すれば日韓

山日韓トンネル
釜山でできるのか?
九州

車で2時間、新幹線なら1時間

「日韓トンネル建設」は1980年代からありました。全長235kmは青函トンネルの約5倍、建設費は約10兆円と破格です。歴代の日本の首相や、韓国大統領も検討したようですが、予算

の面で二の足を踏んでいました(韓国シンクタンク研究員) 鼻息が荒い。日本の大手旅行代理店によると、首都圏や近畿圏からトンネル入り口がある九州までは約2時間かかる。そのため、利用者は中国・九州地域在住者に限られるとしながら

も、「旅行の需要は爆発的に増えるはず」と期待を寄せた。日本から福岡県、長崎県、佐賀県、山口県の4県、韓国から釜山など1市3道が参加して行われる日韓海峡沿岸交流会でもトンネル待望論が出ており、高氏が大統領となれば建設に向けた機運が高まりそうだ。

旅行の需要は爆発的に増える

ちなみに完成までは15年

経済効果は数百億円

分で負担する
とみられる。

を車で2時間、新幹線が通れば1時間足らずで往來できるとあって、その経済効果は莫大なものになる。

よ(県庁関係者)と

トンネルの4分の1が韓国、4分の3が日本の領土を通ることから、建設費もその配